

SS1-5 高齢者の味覚感受性と唾液分泌

○佐藤 しづ子¹, 庄司 憲明¹, 笹野 高嗣¹

¹東北大院歯

味覚障害は、高齢者に多くみられる障害であり、我が国では、急速な高齢化を背景に味覚障害患者が増加している。高齢者の味覚障害は、「味が判らなくなり食事が摂れず体重が減少して体調が悪い」という訴えに示されるように、感覚不調にとどまらず健康不良に発展してしまう特徴がある。従って、味覚障害は単なる感覚障害として放置せず、積極的な治療が必要である。我々は、高齢者味覚障害の治療法確立を目的に、うま味の感受性試験を用いた疫学調査ならびに患者治療を行っている。疫学調査では、高齢者の約4割に味覚検査異常がみられ、全身疾患、服薬および総唾液分泌量低下と関連が深かった。また、患者では甘味、塩味、酸味、苦味に加え、特にうま味感受性低下がみられ、食のQOL低下や体調不良との関連が強い。原因は様々であるが、唾液分泌量低下に起因した高齢者味覚障害患者は多い。口腔乾燥症は、味覚障害と同様に高齢者に頻発する障害で、口腔粘膜炎、根面齲蝕の多発、歯周病の増悪など痛みを伴う様々な併発症を惹起する。最近我々は、うま味刺激が、大唾液腺分泌唾液のみならず小唾液腺分泌唾液を増加させることを確認した。うま味刺激による唾液分泌機能改善は、高齢者の口腔乾燥症ならびに味覚障害の治療に役立つ可能性がある。最近、うま味は、胃の蠕動運動・嚥下・脳機能の活性化に関与することが明らかにされつつあり、治療の一つとしてうま味刺激を用いる方法は、これらの障害のみならず高齢者の全身健康維持に有用な方法と考えられる。